

2 八本松地域



1 地域の概要

八本松地域は、東広島市の中西部に位置し、広島市に隣接しています。小倉神社をはじめとする菖蒲の前の伝説に彩られたこの地域は、戦国時代には安芸国の拠点として曾湯ヶ城、槌山城が築かれたなど戦略的に重要な地域でした。明治期には、山陽鉄道の開通の翌年に八本松駅がおかれて、現在は、八本松駅及び国道486号沿道を中心に住宅地の形成が進み、ロードサイド型の店舗が多く立地しています。地形的には南北に細長い形状となっており、概ね、北部や西部には山林が、南部には農地が広がり、中央部には駅周辺における住宅地のほか、飯田地区、磯松地区などに工業団地が整備されており、吉川地区の工業団地と合わせ、高度な技術を持つ企業が本地域に集積しているほか、米軍や自衛隊の施設が所在しています。

2 まちづくりにおける現状と課題

市制施行直後の昭和50(1975)年に14,816人であった人口は増加を続け、八本松地域の人口は、現在、約29,200人となっています。JR山陽本線等の交通利便性を活かした住宅団地の開発などが進み、発展を遂げてきた地域であり、今後、八本松駅前土地区画整理事業や(仮称)八本松スマートインターチェンジ(以下:(仮称)八本松スマートIC)整備の進展、国道2号東広島バイパス・安芸バイパスの整備に伴い、さらに本市の西の玄関口としての拠点性や、産業面など、市全体の活力を牽引する地域としての期待が高まっているものと考えられます。加えて、集積している半導体関連の先端技術産業においては大規模な投資が見込まれるなど、国内でも有数の産業拠点となっています。

一方、近年、本地域においては、住宅団地の高齢化や、地域の核である駅周辺地区における商業・医療・福祉・子育てなどの生活利便性機能の集積や、駅と周辺地区等を接続する交通ネットワークの充実が課題となっているほか、駅周辺におけるスプロール状の市街地の拡大や農地の喪失が続く中で、企業の進出や拡張に対する意欲が高い地域でありながら、これに応えることができないといった点が課題となっており、その解決に向けて土地区画整理事業や新たな産業団地の整備に向けた検討などが進んでいます。

また、JR山陽本線沿線では人口が増加しているものの、南部では人口減少が進んでおり、こうした現状に対して、移住の受け皿となる住居の確保に向けた地域住民主体の取組みが動き始めています。

さらには、立地環境の良いエリアに防衛施設が存在するなど、地域全体での機能的な土地利用に制約がある中で、まちづくりを進めなければならないという課題もあります。

3 まちづくりビジョン

(1) 将来像

先端産業と田園風景の調和や都市との近接性を活かした良好な居住環境が整ったまち

(2) 主要な施策の方向性

本地域においては、これまでに整備した工業団地、住宅団地の蓄積、広島市等の都市部への近接性や、高速道路等の広域的な道路ネットワークからのアクセス性の良さなどを活かすとともに、従来の田園環境と調和したまちづくりや、子育て・教育環境の充実に取り組んでいくことが必要です。

また、人口増加地区では基盤整備を進めることで快適な居住環境を整える必要があるほか、人口減少地区では集落の維持に向けた土地利用のあり方の検討・住環境の整備など、各地区的特性に合わせた取組みが必要です。

加えて、先端企業の更なる投資が継続することが見込まれるなか、半導体産業の集積に向け、投資機運に呼応した産業団地の整備、これらを支える交通基盤の構築、外国人市民のための生活環境等の整備や多文化共生の促進など、次世代学園都市構想の推進に向けたまちづくりを進めることが必要です。



基本計画に掲げる施策とともに本地域で推進していく主な施策

仕事づくり

項目

施策の方向性

産業イノベーション^{※1}の創出

- 企業におけるAI^{※2}/IoT^{※3}の導入促進等により、産業イノベーションの創出を図ります。

企業の投資促進

- 半導体関連や自動車関連における次世代の先端技術への投資を促進することにより、地域経済の基盤強化を図ります。

農山漁村の魅力づくりと農林水産業の活性化

- 優良農地を活かした都市近郊型農業を推進するとともに、農業企業の誘致を図ります。
- 集落営農を中心とした収益性の高い米づくりを推進するとともに、農業技術センター等の研究機関と連携し、農業技術の高度化を図ります。
- 地域と連携した森林保全を図ります。

地域資源を活かした観光の振興

- 都市との近接性を活かした農泊などの体験型観光や、地域資源を活用した取組みを推進します。



吉川工業団地

人づくり

項目

施策の方向性

乳幼児期における教育・保育の充実

- 乳幼児教育等の子育て支援環境の充実を図ります。

高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践

- 教育の質を高め「生きる力」を育むため、特色ある教育活動の推進、教育環境づくりを進めます。

市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり

- 生涯学び、活躍できる環境として、学習活動の充実、芸術文化活動の活性化、地域単位のスポーツの普及を進めます。
- 大学や試験研究機関等との連携の充実を図ります。
- 菖蒲の前の伝説や大内氏の城など郷土の歴史の保存と活用を推進します。



魅力ある保育環境づくり

暮らしづくり

項目

施策の方向性

暮らしを支える拠点地区の充実

- 八本松駅周辺において、医療、福祉、子育て、商業、文化、交流等の生活利便施設の集積により拠点機能の充実を図るとともに、下水道等の基盤整備など市街地整備事業等により良好な住環境を形成します。
- 移住・定住の促進に向けた土地利用規制のあり方について検討するとともに、既存住宅団地の活性化等により、居住環境の向上を図ります。
- 拠点地区における公共施設の再編を促進し、各種サービス機能の充実を図ります。

安全で円滑な生活交通の充実

- 身近な交通道路網となる国道等の整備を推進します。
- 歩道や自転車道を含め、道路のバリアフリー化を推進し、安全・安心な移動空間の形成を推進します。

多文化共生と国際化の推進

- 技能実習生等の外国人市民の生活環境の充実を図るとともに、多様な言語・文化等の違いを超えて活動を支援します。



土地区画整理事業が進む
八本松駅前

活力づくり

項目

施策の方向性

多様性豊かな市民の力が輝くまちづくり

- 創業・起業と連動した移住・定住の促進とともに、交流人口の拡大を図ります。
- 吉川地区において住民主体で取り組まれている、地域活動拠点の機能向上に向けた継続的な検討を支援するとともに、移住者の受け入れ活動を支援します。

都市成長基盤の強化・充実

- 国道2号安芸バイパスの整備や(仮称)八本松スマートICの整備等を踏まえ、産業用地の確保を進めます。

交通ネットワークの強化

- 国道2号安芸バイパスや国道2号西条バイパスの4車線化の整備促進とともに、(仮称)八本松スマートIC整備及び周辺道路等の整備を促進し、交通ネットワークの充実を図ります。
- JR、バス等の利用を促進し、サービスの維持・活性化を図ります。
- 八本松駅のターミナル機能の強化及び駅周辺の交通機能の向上を図ります。



国道2号安芸バイパス



(仮称)八本松スマートIC
完成イメージ

※1 イノベーション:経済発展の最も主導的な要因。「新結合」「新機能」、新たな価値を創造し社会に大きな変化をもたらす幅広い意味での革新。
※2 AI:Artificial Intelligenceの略。人工的につくられた人間のような知能。ないしはそれをつくる技術。
※3 IoT:Internet of Things の略。モノのインターネットに接続され、情報を交換することにより相互に制御することが可能となる仕組み。

(3) 構想図

安心づくり

項目

施策の方向性

災害に強い地域づくりの推進

- 深堂川などの河川改修・河川維持の促進や、ソフト対策等の防災・減災対策を推進します。
 - 都市型災害(浸水対策等)への対策を推進します。

健康寿命の延伸による生涯現役社会の実現

- 健康維持や介護予防のための通いの場や地域サロンの充実を図ります。

共に支え合い誰もが安心して暮らせる地域社会の実現

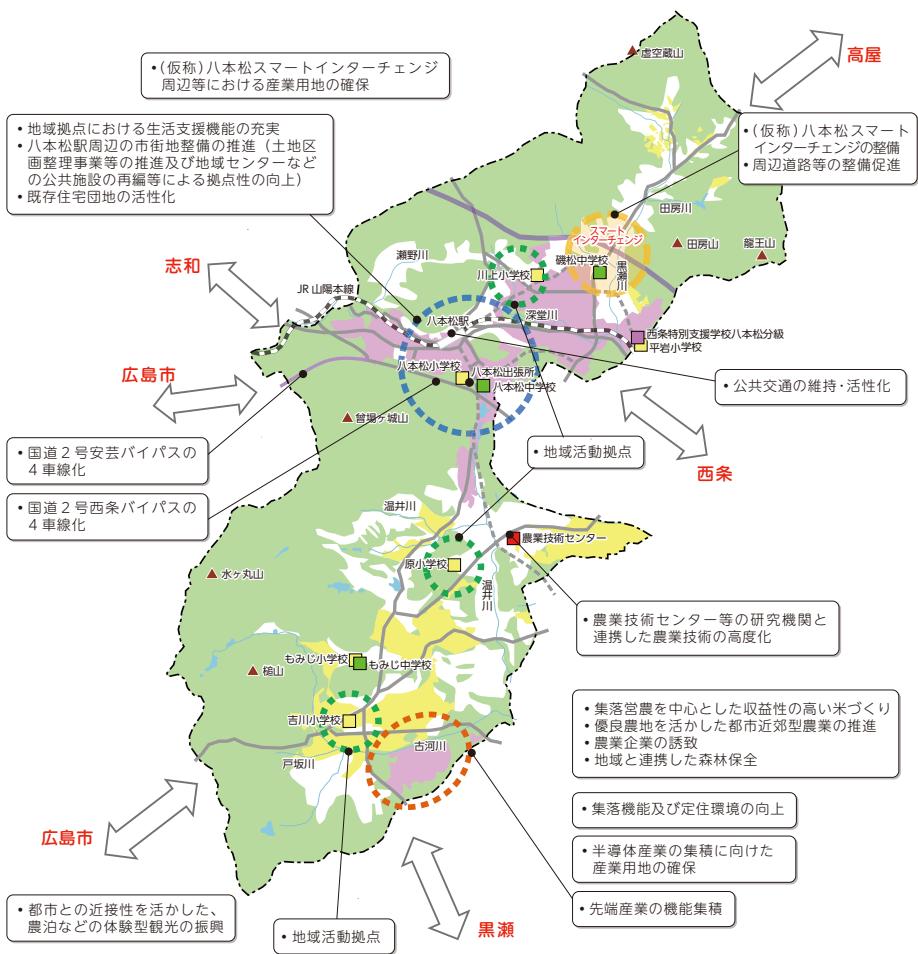
- 地域において、気軽な交流の場、障がいの有無や年齢等にかかわらず、全ての市民が集える場づくりを進めます。

安心して子どもを産み育てられる環境づくり

- 子育て支援拠点において、相談支援などのサービスの充実を図ります。



地域での防災訓練



※計画区間は、具体的なルート、位置等を限定するものではありません。

凡 例

拠点地区	山林	□ 小学校
特定機能拠点	農用地区域	■ 中学校
地域拠点	市街化区域、用途地域	■ 特別支援学校
地域活動拠点	▲ 主な山	■ 公的研究機関
	主な河川	
	主な池等	
	高規格道路	
	主な道路(破線は計画区間)	
	鉄道	